

戰後台灣蔣中正時代的官方近代史敘述：從反共抗俄到反共

若松大祐*

東京大學大學院綜合文化研究科

序言

一、蘇俄在中國：中共為蘇聯的傀儡

二、中(共)蘇論爭：兩者對立為欺騙

三、中(共)美接近：中共為國族敵人

小結

【中文摘要】

在戰後台灣蔣中正擔任國家領導的時代，國家如何敘述歷史呢？本文目的是解決此一問題。主要史料，以從 1949 到 1975 年為止的總統的公開言論（文告、就職宣誓致詞、遺囑、著作等）為主。在歷年史料中的敘述者（Story-teller，亦即總統）所提倡的國家目標（政治口號），是從「反共抗俄」改變到「反共」。因而，本文擬特別注意到如此（假想）敵人的變化。換言之，本文的討論對象，是在蔣中正時代官方言論中所表現出的所謂近代史敘述，以及其 25 年的漸進歷程。

所謂歷史敘述，意味著人類就選取過去歷程、說明現在狀況、表示未來方向。吾人當概觀歷史敘述在戰後台灣的整個歷程之際，就容易發現一種變化。即，蔣中正時代以國民革命為名義來推動光復大陸論述，該論述所依據的邏輯之重點，從當初的冷戰美蘇對立（為了自由而戰），演變到後來的國共內戰對立（為了國族而戰）。吾人亦可以指出，當年外在因素（如中（共）蘇論爭、中（共）美接近等國際現實），對台灣官方的美蘇對立邏輯（如美蘇兩極對立般的單純善惡二元論），加以崩潰。不過，對於似乎從冷戰邏輯到內戰邏輯般的一種轉換，官方見解本身到底如何說明呢？本文擬根據這種問題意識，集中於官方論述，而對蔣中正時代的官方歷史敘述，加以分析。

【中文關鍵詞】歷史敘述，文告，國民革命史觀，反共，抗俄

* WAKAMATSU, Daisuke. 日本東京大學綜合文化研究學院區域文化學系博士候選人、國家圖書館漢學研究中心訪問學人（九十八年度）。本文為尚在進行中之未定稿，僅供本研討會討論，非經同意請勿作任何形式之引用。E-mail: dwakamatsu@yahoo.co.jp

戦後台湾の蒋介石時代における官製の近代史叙述：

反共抗ソから反共へ

若松大祐*

はじめに

- 一、中国の中のソ連：中共はソ連の傀儡
 - 二、中ソ論争に際して：両者の対立は偽物
 - 三、米中接近に対して：中共は民族の敵
- おわりに

【要旨】

戦後台湾で蒋介石が国家元首であった時代にあつて、国家はどのように歴史を叙述したのか。この問いの解明が、本報告の目的である。根拠になる主な史料は、1949年から1975年までの総統名義の公開言論（告辞、就職宣誓演説、遺囑、著作等）である。歴年の史料において、話者（Story-teller、すなわち総統自身）が提唱する国家目標（スローガン）は、反共抗ソから反共へ変化している。本稿はかかる仮想敵の変化に注目して、考察を進める。換言すれば、蒋介石時代の官製言論の公示する近代史叙述およびその25年間の漸進的な変遷が、本稿の考察になる。

そもそも歴史叙述というものは、過去を選抜し、現在を説明し、未来を方向付ける。戦後台湾の公式見解の変遷をながめるなら、我々は次の変化に気づく。すなわち、蒋介石時代において国土回復を目指す国民革命が依拠する論理の重点は、当初の冷戦の米ソ対立（自由のための戦い）から後に国共内戦の対立（民族のための戦い）へ、変化している。確かに変化の外在的な理由として、米ソ対立の論理（単純な米ソ二極対立という善悪二元論）を崩壊させる事実（中ソ論争、米中接近）は挙げよう。いわば冷戦の論理から内戦の論理への転換について、公式見解はどのように説明したのか。かかる問題意識の下に、本稿では蒋介石時代の官製の歴史叙述を検討する。

【キーワード】 歴史叙述、告辞、国民革命史観、反共、抗ソ

* WAKAMATSU, Daisuke. 日本東京大学総合文化研究学院区域文化学系博士候選人、国家图书馆漢学研究中心訪問学人（九十八年度）。本文為尚在進行中之未定稿，僅供本研討會討論，非經同意請勿作任何形式之引用。E-mail: dwakamatsu@yahoo.co.jp